



水稻生産情報



JA つがる弘前
弘前中央地区営農係

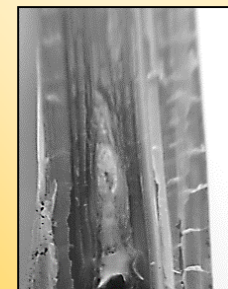
適期追肥、天候に合わせた水管理で収量・品質を向上させよう！

1. 生育概況

- 5月下旬の天候不順により生育の遅れが見られましたが6月に入ると好天に恵まれ生育は回復し、平年並み～平年をやや上回る状況です。
- 今後、気温は平年より高く、降水量が多くなり、7月上旬頃から曇りや雨の日が多くなる見込です。
稲の穂ができ始める重要な時期となりますので、水管理をはじめ追肥等の作業の時期を失しないよう注意しましょう。また、病害虫の早期発見、早期防除に努めましょう。

幼穂形成期とは…

幼穂が1.5mm程度になった頃を幼穂形成期といいます。追肥や水管理の目安として重要ですので、主茎の根元を切り確認してみましょう。



2. 追肥の時期

- 葉色を見ながら追肥する時期を見極めよう。
- 追肥はNK25号または、ロマン追肥を1袋/10a 散布しましょう。

1回目幼穂形成期（平年7月13日頃）

- ・この頃に葉色が落ちていたら追肥を行いましょう。
- ※葉色が落ちていない場合は10日程度様子を見ます。
- ※**青天の霹靂**は追肥が遅れると玄米タンパク質含有率が高まります。追肥は営農係に相談しましょう。

2回目減数分裂期（平年7月23日頃）

- ・幼穂形成期に追肥していない場合、葉色が落ちていたらここで追肥を行いましょう。
- ※この時期でも葉色が落ちていない場合は、追肥は中止します。

3. 水管理

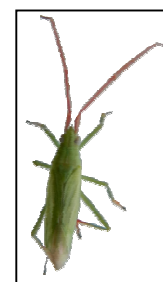
- 中干しは幼穂形成期までには終わらせましょう。
- 幼穂形成期～穂ばらみ期は、吸水量が多く低温に弱い時期なので、水管理を徹底しましょう。

時期	水深	ポイント
幼穂形成期 (平年7月13日頃～)	10cm程度	・幼穂形成期から10日間は気温の高低に関わらず、10cm程度の深水管理を行いましょう。
穂ばらみ期 (平年7月23日頃～)	寒い日：15～20cm 暖かい日：4cm	最も低温に弱い時期です。 ・天候に気を付けながらこまめに水管理を行いましょう。
出穂・開花期 (平年8月5日頃～)	寒い日：10cm 暖かい日：5～6cm	最も水が必要な時期です。 ・開花・受精がスムーズにできるよう、水はきらさないようにしましょう。 【胴割れ注意！】 ・出穂後10日間の最高気温が30度を超えると胴割れ米が発生しやすくなります。水の入れ替え、かけ流しを積極的に行いましょう。

4. カメムシ対策（草刈り）

- 今年のカメムシ発生はやや多くなる予想となっております。
- カメムシの生息密度を低下させるため、7月20日までにこまめに草刈りを行いましょう。
- 7月21日～9月上旬までは草刈りは絶対やめましょう。

1,000粒に2粒あるだけで2等へ落ちてしまいます。



●カメムシの被害粒

●被害を与えるカメムシたち

5. 病害虫防除

時期	病害虫	薬剤
出穂直前（7月30日頃）	いもち病	ビームDL粉剤
穂揃期（8月5日頃）	いもち病・カメムシ	ビームスタークルDL粉剤
穂揃期10日後頃（8月15日頃）	カメムシ	スタークルDL粉剤

<航空防除実施について>

- ・1回目（出穂直前）は7月下旬、2回目（出穂10日後）は8月中旬頃を予定しております。
※天候により変更される場合があります。
- ・申込した方は旗の設置を必ずお願いいたします。
- ・近隣の皆様にはご迷惑をお掛けしますが、散布田に隣接しているハウスのビニールを下す、また近隣の住宅の方は洗濯物の取込みや窓閉め、ペットの避難などのご協力をお願いいたします。

